

38  
光村 小国 109

垣内松三著

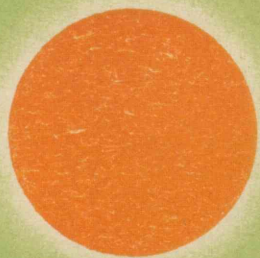
# はらっぱ

しんこくご 一ねん 中

教育部  
資料室

教科書文庫  
6  
810  
34-1949  
0130449654

文部省検定済教科書



小 KC  
Mi65

60405

教科書文庫

6  
810  
34-1949  
01304  
49654

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

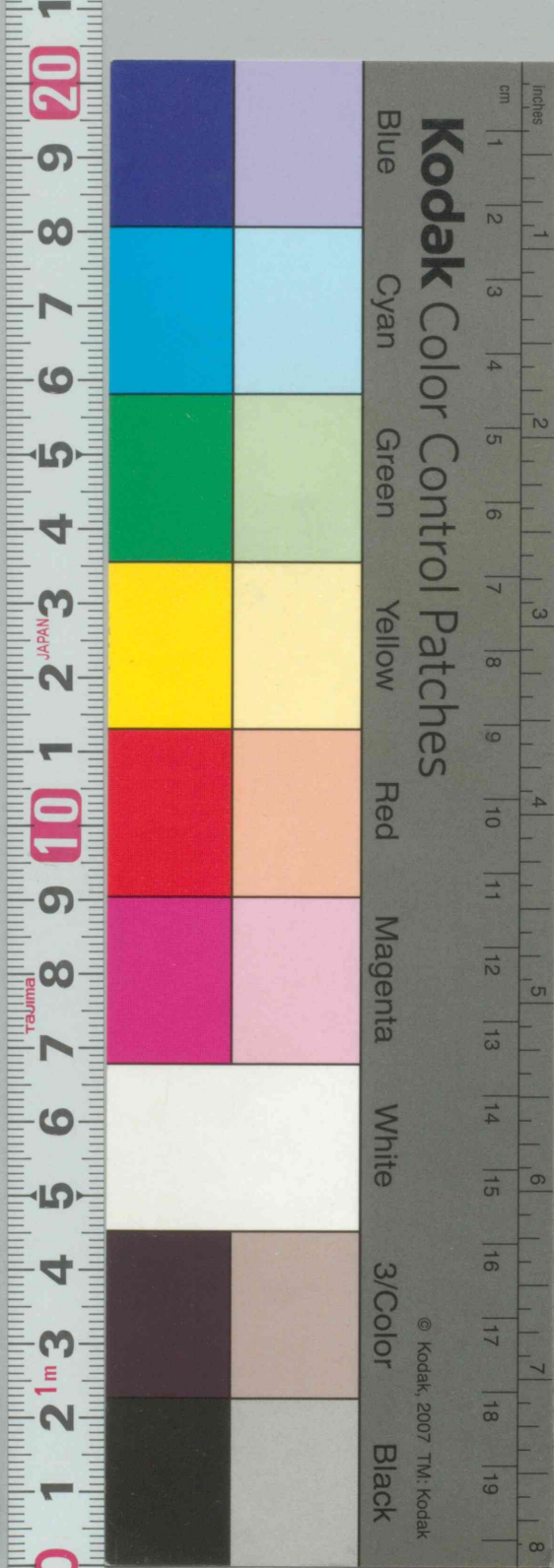


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



指導者のために

(一) この本は上巻(入門書)の後を受けて、同じ人物を登場させ、児童の戸外生活に取材して基本的な言語を組織的に排列すると共に、興味を助長しながら、いろいろの言語活動が有機的に発展し、次第に「読み」の態度を確立することに努めた。  
(二) この本の内容は、季節的な生活の変化に応じて、次の六つの主題に分かれている。

一、はらっぱ  
下校後の児童の遊びを主題とし、表現は短い文を採用して「話す」世界を重視した。ここに掲げたほかに、児童の遊びによつて言語生活を発展させてほしい。

二、はしの上  
初夏の自然に取材し、表現は平易ではあるが、やや複雑な文を提出した。自然に対する観察を深め、豊かな感情を養いながら、「読み」の生活を高めていきたい。

三、かえるのおやこ  
はじめて長い文を提出したが、内容は極めて単純でユーモアに富んでいるから、「読み」への興味を高めていきたい。

四、すずしいかぜ

(三) この本に提出した語は上巻(入門書)の最も基本的な六三語につづいて、新出語数は二五五語である。厳密に言えば毎頁新語率は三・九八になるが(たとえば「きいろ」(名詞)と「きいろい」(形容詞)とを二語に区別しているからで)、実際には一頁に二語又は三語以内にとどめてある。総用語一五二〇語、単用語数三一八語で二語平均反復回数は四・七八回となっている。  
(四) この本でも入門書と同様にさし絵は非常に重要な位置を占めるから特別に考慮した。さし絵の活用には充分留意して指導された

(五) この本の使用は大体六月から十一月までを目標として、一主題を平均一か月あてとしたが、それを固執する必要はない。地方の実情に即し、児童の個人差を考えて言語活動を十分に伸ばしてほしい。

広島大学図書

0130449654



贈 寄

教科書文庫

6

810

34-1949

0130449654

昭和二十四年十月十日  
文部省検定済  
小学校国語科用

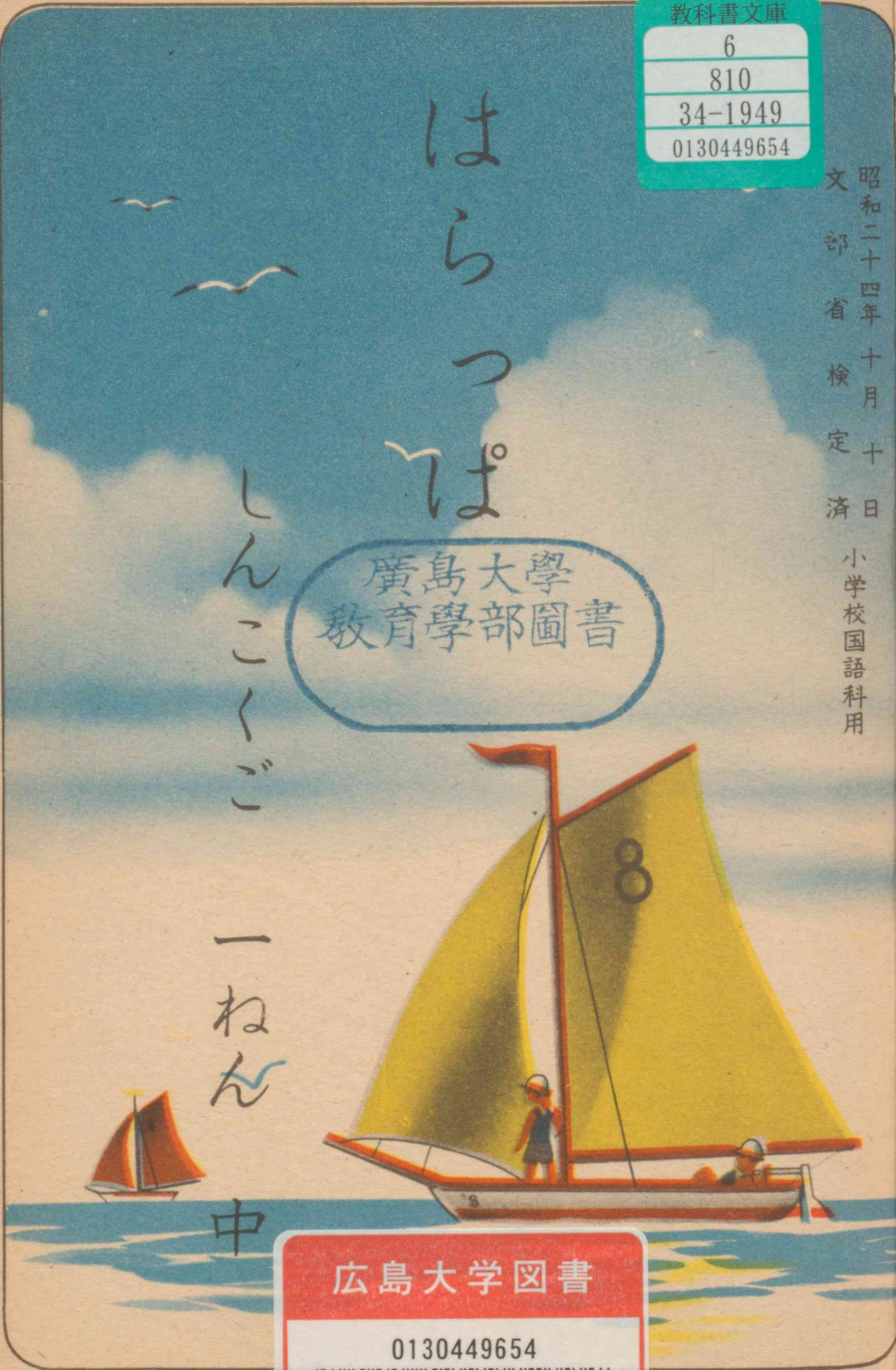
はらっぱ

広島大学  
教育学部図書

しんこくご  
一ねん  
中

広島大学図書

0130449654





もくろく

一 はらっぱ ..... 4

(一) みどりの はらっぱ  
(二) なわとび  
(三) ぼーる  
(四) かくれんぼ

二 はしの上 ..... 12

(一) ささぶね  
(二) はしの上  
(三) にじ  
(四) くも  
(五) ゆう日

三 かえるの おやこ ..... 22

四 すずしい かぜ ..... 27

(一) すずみ だい  
(二) えんそく  
(三) どこへでも いけたら  
(四) かげふみ

五 おかあさん ..... 40

(一) えぷろん  
(二) がん  
(三) おちば  
(四) おむかえ

六 三びきの 子ぐま ..... 53



— はらっぱ

(一) みどりの はらっぱ

はらっぱ、  
はらっぱ、  
かけたいな。

みどりの  
はらっぱ、

かけたいな。

はらっぱ、  
はらっぱ、  
とびたいな。

あかるい  
はらっぱ、  
とびたいな。



びよん びよん  
とびました。

ひさしさんと  
みどりさんが、  
とびました。



ぐる ぐる  
まわしました。

まさおさんと  
よしこさんが、  
なわを まわしました。

(二) なわとび





まさおさんが、ぼーるを  
 とおくへ なげました。  
 しろが、かけて いきま  
 した。  
 しろが、ぼーるを とっ  
 て きました。

(三) ぼーる  
 まさおさんが、  
 ぼーるを なげました。  
 ひさしさんが、  
 ぼーるを とりました。



(四) かくれんぼ

かくれんぼを  
して  
あそびました。

「もう いいかい。」  
「まあだだよ。」

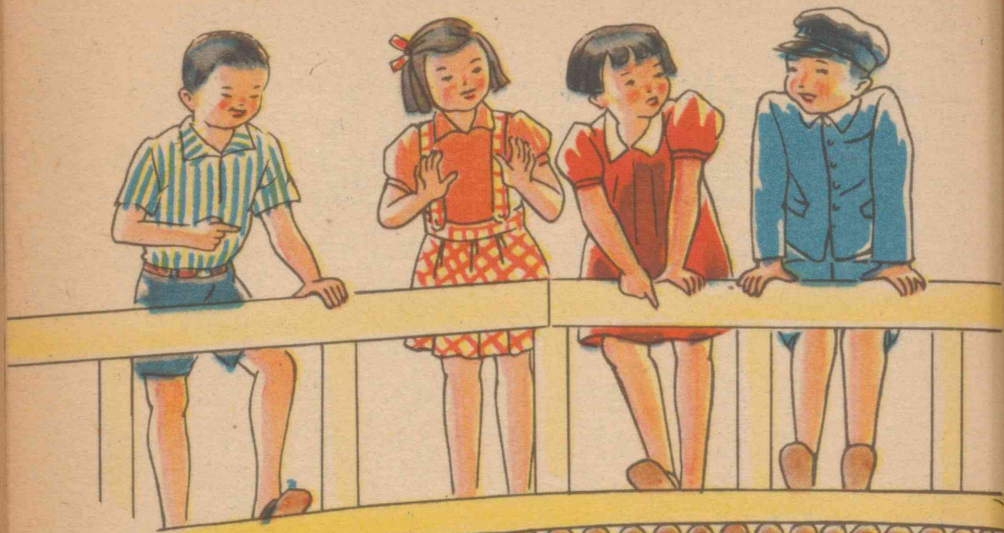


「もう いいかい。」  
「もう いいよ。」

まさおさんが、さがしに  
いきました。  
くろも いきました。

「わん、わん。」  
くろが、みんなを  
みつけました。





「この川は、どこから  
ながれて  
くるのでしょう。」  
と、まさおさんが  
いいました。



した。

「ささぶねは、どこへ  
ながりました。  
がれて、いくのでしょ  
う。」  
と、よしこさんが  
いいま

二 はしの上

(一) ささぶね





(二) はしの上

「おもしろいよ。」

と、まさおさんが いいました。

はしの 上から、下を みました。

みんなの かげが、川に うつり

ました。

しろい くもの

かげも、うつつて

いました。

かげを みて いると、

はしが うごきだすように

おもいました。

「おもしろい、おもしろい。」

「うごく、うごく。」

「すすむ、すすむ。」

はしが すすむように

おもいました。

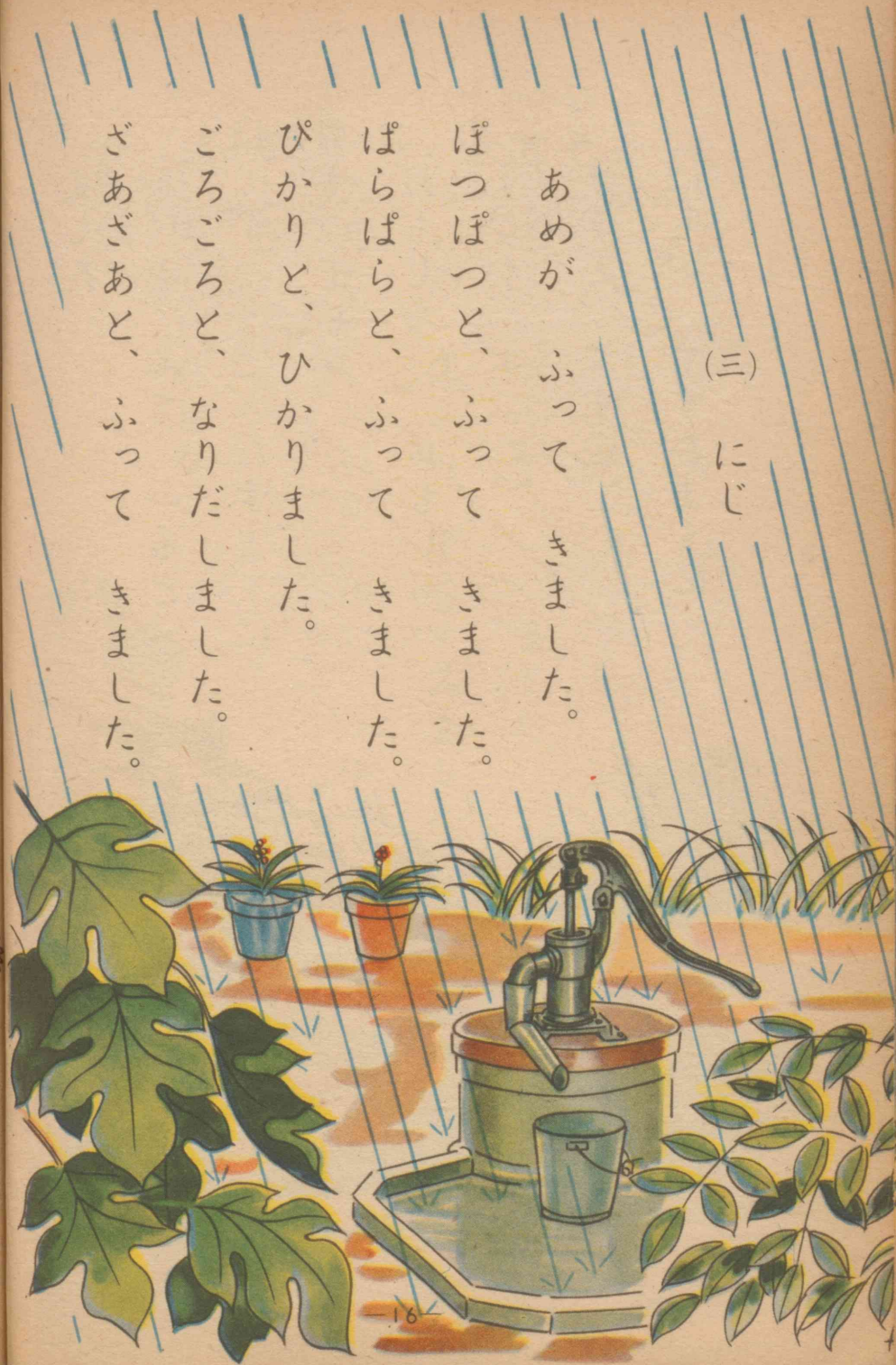




あめが やみました。  
 にじが できました。  
 おおきな にじが  
 できました。



そらの はしです。  
 あか、きいろ、みどり、  
 あお、むらさき。  
 きれいな はしです。



(三) にじ

あめが ふって きました。  
 ぽつぽつと、ふって きました。  
 ぱらぱらと、ふって きました。  
 ぴかりと、ひかりました。  
 ごろごろと、なりだしました。  
 ざあざあと、ふって きました。



(四) くも

さかなのような くもが、ながれ  
て いました。

「しろい おおきな さかなが、お  
よいで いるよ。」

と、まさおさんが いました。

「あひるが、おいかけて いますね。」

と、よしこさんが いました。

「あひるを、いぬが、おいかけて  
いるよ。」

と、ひさしさんが いました。

「いぬを、わにが、おいかけて  
いますね。」

と、みどりさんが いました。

くもは、いろいろに かわります。

(五) ゆう日

ぎんぎん

ぎらぎら、

ゆう日がしずむ。

ぎんぎん

ぎらぎら、

日がしずむ。

まっかつかつか、

そらのくも。

みんなのおかおも、

まっかつか。

ぎんぎん

ぎらぎら、

日がしずむ。





三 かえるの おやこ

はっぱが ういて いました。

おとうさんがえるが

「あの はっぱまで、およいで

けるかね。」

と、こがえるに いました。

「いけますよ。」

と、こがえるが いました。

「いって ごらん。」

と、おかあさんがえるが いい

ました。

こがえるが、ちゃぷんと と

びこみました。

ちゃぷ ちゃぷ ちゃぷと

およいで いきました。

こがえるは、うまく はっぱ

につかまりました。





「おかあさんも おいでよ。」  
 と、こがえるが よびました。

「いきますよ。」

おかあさんがえるが、じゃぶん

と とびこみました。

じゃぶ じゃぶ じゃぶと、お

よいで いきました。

「さあ、きましたよ。」

おかあさんがえるも、はっぴに

つかまりました。

「おとうさんも おいでよ。」

と、こがえるが よびました。

「いくよ。」

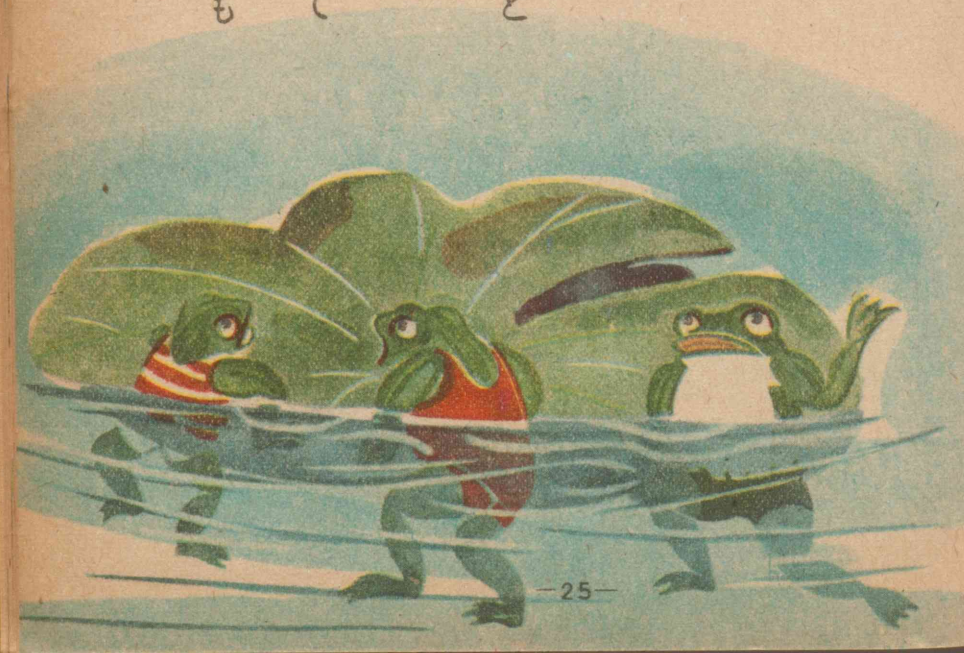
おとうさんがえるが、どぶんと

とびこみました。

どぶ どぶ どぶと、およいで

いきました。おとうさんがえるも

はっぴに つかまりました。



三びきの かえるが つかまっ  
たので、はっぱは、すつと しず  
みました。

かえるの おやこは あわてま  
した。こがえるを 中に して、

ちゃぶ ちゃぶ、

じゃぶ じゃぶ、

どぶ どぶ、

と、およいで かえりました。

四 すずしい かぜ

(一) すずみだい

まさおさんの うちの すず

みだいで、せんこうはなびを

して あそびました。

しゅ しゅ。しゅる しゅる。

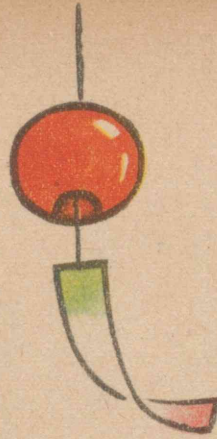
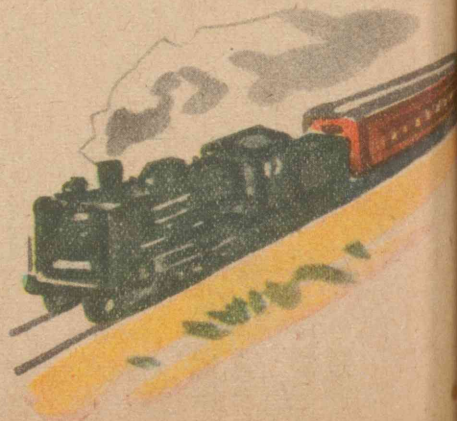
ぱち ぱち。ぴか ぴか。





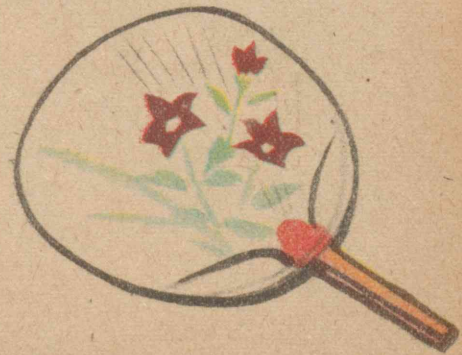
「しゅっ しゅっ しゅっ ぽう。」  
 「きしゃでしゅう。」  
 「そうです。きしゃです。」

「ろろろろ。」  
 「さあ、なにかしら——わかりません。」  
 「こおろぎです。」  
 「こおろぎなら、ころころころでしゅう。」  
 「わたくしには、ろろろろと、きこえます。」



○  
 おとの あてっこを しました。  
 「ぱた ぱた ぱた、なあに。」  
 「うちわです。」

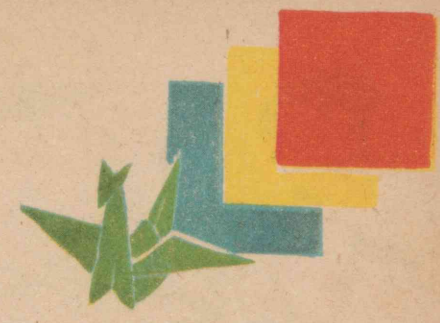
「ちろちろちろ、ちりん ちりん。」  
 「はい、ふうりんです。」  
 「そうです。」





えんそくに いきました。  
 まちを とおって いきました。  
 たんぼを とおって いきました。  
 た。  
 うたを うたいながら いきま  
 した。

(二) えんそく



それから、しりとりあそびを  
 しました。  
 あかい — いろがみ — み  
 んな — なかよし — しか  
 — からかさ — ささぶね  
 — ねこ





山の上のぼりました。  
 すすしいかぜが、ふいて  
 ました。

まちがみえました。  
 まちの中を、川がながれて  
 いました。

まちのむこうは、たんぼでし  
 た。きしゃがはしっていきま  
 した。

たんぼのむこうは、山  
 でした。あおい山でした。  
 山のあいだから、うみ  
 が、白くひがってみえ  
 ました。  
 うみをみながら、べん  
 どうをたべました。  
 うみへいってみたい  
 とおもいました。





(三) どこへでも いけたら

ひさしさん。

「ぼくは、うみの むこうに、い  
って みたいと おもいます。

どんな くにが あるでしょう。

どんな 人たちが いるでしょう。

う。

よしこさん。

「わたくしは、うらしまさん

の ように、りゅうぐうに

いって みたいと おもい

ます。

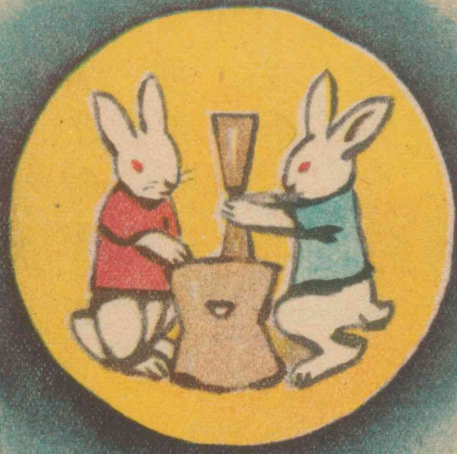
おさかなの おどりを み

たいと おもいます。

おとひめさまに、あつて

みたいと おもいます。」





みどりさん。  
「わたくしは、お月さまの  
くにに、いってみたいと  
おもいます。  
どうしたら、いけるかしら。  
どんなところかしら。  
ほんとうに、うさぎさんが  
いるかしら。」



まさおさん。  
「ぼくは、あの白いくも  
の上、いってみたいと  
おもいます。  
とりのように、とんで、  
いってみたいとおもい  
ます。」



(四) かげふみ

月よの、

月よの、

あかるい おにわ。

おいでよ、

おいでよ、

かげふみ  
しましよ。



はねます、

とびます、

あかるい 月よ。

それぞれ、

ふみます、

ふみます、  
かげを。

五 おかあさん

(一) えぶろん

おかあさんの えぶろん、  
いつも いつも まっ白なのね。

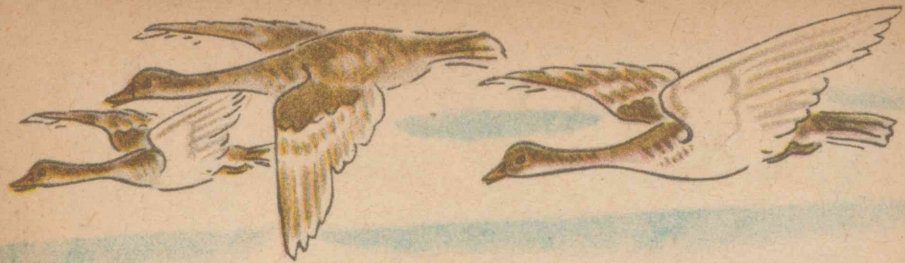
ぼくのおやつが、  
ぼけつとから でて くるのね。



おかあさんの えぶろん、  
いつも いつも きれいなね。

ふみおが ないた とき、  
かおを ふいて あげられるのね。

となりの あかちゃんに、  
「いない いない、ばあ。」  
をして あげられるのね。



(二) がん

がんのおかあさん「だいじょうぶですか。つかれませんか。」

がんのこども「だいじょうぶですよ、おかあさん。あん

なに まいにち けいこしたんですもの。」

おかあさん「白い くもが でて きましたね。にい

さんたちに はぐれないように ついて

いらっしやいよ。」

こども「まえには にいさんたちが いるし、あ

とには おかあさんたちが いらっしや

るので、あんしんして とべます。」

おかあさん「いい かぜですね。もっと ゆっくり

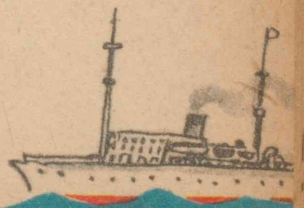
とんで いきましよう。」

こども「ああ、うみの 上を 白い きせんが

いくよ。ぼくたちも、この かぜに の

って いていこう。」

おかあさん「これこれ、そんなに まえに でては





いけません。いそぐと つかれますよ。  
 ことも2「だって、はねが むずむずして しかた  
 が ないんだもの。」

おかあさん「でも、この うみは ひろいのですよ。

まだまだ つづきますよ。いそがないで  
 しっかり とびましよう。」

ことも2「はやく にっぽんを みたいなあ。」

ことも1「わたしもよ。——こうして そろって ど  
 んでると、ちっとも つかれないのね。」

(三)

おちば



木の はが ちって きました。

ぱら ぱら ちって きました。

「まさおさん、あなたは あかい きしょうを つけ」



て いますよ。

と、よしこさんが わらいました。

「よしこさんは、きいろい りぼ

んを つけて いますね。」

と、みどりさんが わらいました

「くろも、きいろい りぼんを つけて いるよ。」

と、ひさしさんが いいました。みんな わらいまし

た。

みんなで、あかい もみじのはを ひろいました。

きいろい いちようのはを ひろいました。

一まい、二まい、三まい、四まい、五まい、

六まい、七まい、

かぞえきれないほど ひろいました。



○

おかあさんが しょ

うじを はって いら

っしゃいました。



「まあ、きれいな おちばで  
すね。すこし ちようだい。  
とおっしやいました。」

「はい、あげます。」

まさおさんは、きれいな  
はを えらんで あげました。

おかあさんは、

「ここに、はりましようね。」

とおっしやって、しようじ

の やぶれに、いちようのはを はりつけました。

「ここには、もみじのはを はりつけましよう。」

ひきての ところには、

もみじのはを はりつけ

ました。きいろい いちよ

うのはと、あかい もみ

じのはが、すいて みえ

ました。おへやが きれい

になりました。



(四) おむかえ

あめが ふつて きました。

おとうさんは、まだ おかえりに なりません。

おかあさんが、

「まさおさん、おとうさんに、かさを もつて いて ください。」

と おっしゃいました。

まさおさんは、からかさを さして いくことに

しました。あたらしく かって いただいた からかさです。

からかさを

ひらくと、ぱ

りぱり おと

が しました。

あたらしい あぶらの においが ぷんと しました。

くろが、ついて きました。

くろも、からかさに いれて やりました。



あめが、小さな たまに なって、からかさの 上  
をはしります。あめの たまが ぽとぽと おち  
て きます。まさおさんは、からかさの うらを み  
ながら、あるいて いきました。



六 三びきの 子ぐま

(一)

まさおさんの うちに、ひさし  
さんと、よしこさんと、みどりさ  
んが、あそびに きました。

四にんで、おはなしを つくることに しました。  
「かわいい、三びきの 子ぐまが いました。」





と、よしこさんが いました。  
 「くまだから、五ひきでしよう。」  
 と、まさおさんが いました。

「そうそう、五ひきで くらして いました。」

と、よしこさんが いなおしました。

「おとうさんの くまは、いつも 山へ

いって、木の みを とって きました。

おかあさんの くまは、川へ いって、

さかなを とって きました。そして、



まさおさんから はじめました。

「子ぐまたちは、山の おくに

すんで いました。」

と、ひさしさんが

つづけました。

「おとうさんの くまも、

おかあさんの くまも

いました。みんなで

五にん いました。」





よしこ「てんきのいい日でした。」

子ぐまたちは、よろこんで  
でかけました。」

みどり「山の 上で べんとうを た

べました。おすわりして た

べました。おいしい、おいし

いどいって たべました。」

(三)



子ぐまたちに たべさせて いました。」  
と、みどりさんが つづけました。みん  
なで かんがえながら、おはなしの  
つづきを つくって いきました。

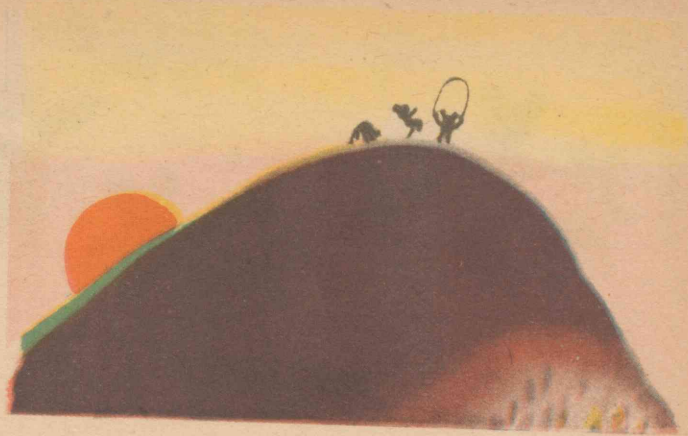
(二)

まさお「ある日、三びきの 子ぐまは、山へ あそびに

いくことに なりました。」

ひさし「べんとうを もって いくことに なりました。」





みんなで かんがえながら、おはなしをつくって  
いきました。

山の上は、いいけしきでした。

三びきの子ぐまは、はねたり おどつ  
たり して あそびました。

かえる ときになつて、みちがわ  
からなく なりました。あっちへ いたり、こっち  
へ きたり して、うろうろして いました。

日が くれそうに なりました。

三びきの 子ぐまは、なきたく なりました。

(四)

子ぐまたちの かえりが おそい  
ので、おとうさんの くまも、おか  
あさんの くまも、しんぱいに な  
りました。

子ぐまたちを、むかえに いく ことに しました。



おとうさんの くまは、右の みちから 山に のぼりました。おかあさんの くまは、左の みちから 山に のぼりました。



山の上で、おとうさんの くまと おかあさんの くまが、であいました。「みつからなかったの。」  
「ええ、みつかりませんでした。どうしたのでしょう。どこへ いったの でしょう。」

二ひきの くまは、山の上から、子ぐまたちをさがしました。目を大きく ひらいて、さがしました。

子ぐまたちは、どこへ いったか みつかりません。二ひきの くまは、いよいよ しんぱいになりま

した。  
「もう 一ど、さがしに 行って みよう。」

二ひきの くまは、また、右と 左に わかれて、さがしに いかしました。



(五)

あたりが、うすぐらく なって きました。

「おかあさん、おかあさん。」

一ばん 小さな 子ぐまは、とうとう なきだして  
しまいました。

「もう 一ど、山の 上に のぼって みよう。おと  
うさんと おかあさんが、むかえに きて くれる  
かもしれない。」

と、一ばん 大きな

子ぐまが いいました。

「それが いい。」

と、中の 子ぐまが

いいました。

「さあ、なかないで

いきましよう。」

と、小さな 子ぐまの 手を ひいて やりました。

やぶの 中を くぐったり、いわに つかまったり



しながら、三びきの子ぐまは、山の上へのぼつていききました。

○

「きょうは、ここまでにしておきましょう。」  
と、まさおさんがいいました。  
「いつか、また、このつづきをしましゅうね。」  
と、よしこさんがいいました。

このおはなしのつづきを、みなさんもつくってみてください。

がくしゅうのてびき

まえの本には、がつこうに、いくところからうちにかえるところまでを、かきました。この本は、おもにうちに、かえつてからのことを、かきました。

この本を、もとに、して、おはなしをしたり、よんだり、かいたり、して、ください。

一 はらっぱ  
うちに、かえつてから、まさおさんたちはどこであそびましたか。

なにを、して、あそびましたか。あなたは、なにを、して、あそびますか。

(一) はらっぱ  
はらっぱに、いくと、どんなきもちが、するでしょう。まさおさんたちは、なにを、して、あそぼうと、して、いるのでしょうか。

(二) なわとび

どのひどが、まさおさんですか。どのひどが、よしこさんですか。  
あなたは、だれと、なわとびを、しますか。どんなにして、しますか。

(三) ぼーる  
あなたは、ぼーるを、なげて、あそびますか。このぶんを、よんで、おもしろい、ところは、どこですか。

(四) かくれんぼ  
かくれんぼの、うたを、しって、いたら、うたつて、みましょう。  
あなたが、かくれんぼを、した、ときの、ことを、おはなしして、ください。

この、ぶんを、よんで、おもしろい、ところは、どこですか。

二 はしの上

ここから、すこしずつ、かんじが、はいつて、いま

(一) ささぶね  
ささぶねを、つくって、あそんだ、ことが、あり  
ますか。ささぶねは、どこへ、ながれて、いくの  
でしよう。

川は、どこから、ながれて、くるのでしよう。  
そして、どこへ、ながれて、いくのでしよう。お  
はなしを、してください。

(二) はしの、上  
みんな、なにを、して、いるのですか。

あなたも、こんな、きもちに、なった、ときが  
ありますか。それは、どんな、ときでしたか。  
なぜ、こんな、きもちに、なるのか、かんがえて  
みた、ことが、ありますか。

(三) にじ  
あめが、ふって、きました。だんだん、ひどく  
ふって、くる、ようすを、なんと、かいて、あり  
ますか。  
にじの、いろは、七いろです。みんな、いつて

つごろの、ことが、かいて、あります。あなたも  
ことばあそびを、して、ください。おもった、こと  
を、いろいろ、はなしあつて、ください。

(一) すずみだ、  
せんこうはなびで、あそんだ、ことが、あります。  
か。せんこうはなびの、ひかりを、よく、みて  
みましょう。おとを、よく、きいて、みましょう。  
おとの、あてつこを、して、みましょう。

(二) えんそく  
ことばの、しりとりあそびを、して、みましょう。  
えんそくに、いつた、ときの、ことを、おはなし。  
して、みましょう。

(三) どこへでも、いけたら  
ひさしさん、よしこさん、まさおさん、みどりさ  
んは、どこへ、いきたいと、おもいましたか。  
なぜ、いきたいと、おもいましたか。  
あなたは、どこへ、いつて、みたいと、おもいま  
すか。なぜ、いつて、みたいと、おもいますか。

(四) ごらんなさい。  
くも

どんな、おはなしが、かいて、ありますか。  
あなたも、こんな、きもちに、なった、ことが  
ありますか。くもを、みて、きの、ついた  
ことを、はなしあつて、みましょう。

(五) ゆう日  
この、ぶんを、うたって、みて、ください。  
うつくしい、ゆう日を、みた、ときは、いつも  
うたって、ください。

三 かえるの、おやこ  
はじめての、ながい、ぶんです。えを、みながら  
おはなし、して、ください。  
ぶんを、よんで、かえるが、なにを、した、おはな  
しか、どんな、ところが、おもしろかったか、など、  
みんな、はなしあつて、ください。

四 すずしい、かぜ  
ことばあそびや、おはなしを、もとに、して、九が、  
いい、月です。こどもたちが、かけふみを、し  
て、あそんで、いる、ときの、うたです。

(一) うつくしい、お月さんの、ことを、おはなしして  
ください。お月さんの、ことを、ふんに、かいて  
ください。

五 おかあさん

おもに、おかあさんの、ことが、かいて、あります。  
あなたも、おかあさんの、ことを、おはなしして  
ください。このごろの、けしきや、あそびや、てつ  
だいの、ことを、おはなしして、ください。

(一) えぶろん  
おかあさんは、えぶろんで、いろいろな、ことが  
できます。えぶろんには、いろいろな、ものが  
いれられます。

(二) がん  
おはなしを、する、ときの、ことばを、そのまま  
みしかい、ぶん、かいて、ごらん、なさい。  
がんの、おかあさんや、こどもに、なる、人を

きめて よんで ください。  
 ただし ことばで、おはなしを する れんし  
 ゆうを して ください。

(三) おちば  
 あなたは この ぶんを よんで どう おもい  
 ますか。

あなたが おちばひろいを したり、おちばで  
 あそんだり した ときの ことを、おはなしし  
 て ください。

(四) おむかえ  
 おかあさんは おちばを どう なさいましたか。  
 あなたは ひろった おちばを どう しましたか。

あたらしい からかきの ことが、じょうずに  
 かいて あります。どこが じょうずに かけて  
 いると おもいますか。  
 どう したら、ぶんが じょうずに かけるので  
 しょう。

六 三びきの 子ぐま  
 四にんで ながい おはなしを つくって あそび  
 ました。

あたらしい ことば

お月さま	あめ	日	ゆう日
くも	月よ	にじ	てんき
けしき	山	うみ	はらっぱ
川	いわ	がん	うさぎ
あひる	いぬ	ねこ	どり
しか	わに	くま	かえる
こおろぎ	人	木	は
はっぱ	おちば	もみじ	いちよう
やぶ	み		
あんしん	しんぱい	だいじようぶ	きれい
おと	におい	あか(まつか)	まつ白
あお	みどり	むらさき	きいろ
たま	かお(おかお)	ぼけつと	えぶろん
きしょう	りぼん	目	手

- (一) 三びきの 子ぐまは どんなに して くらして  
 いましたか。どんなに して おはなしを つく  
 って いきましたか。
  - (二) 四人が おはなしした じゆんじよー かきまし  
 た。どんな おはなしが かいて ありますか。
  - (三) まえの ぶんど、かきかたが ちがつて います。  
 どんな ところが ちがつて いますか。子ぐま  
 たちが どう なった ことが かいて ありま  
 すか。
  - (四) ここには どんな ことが かいて ありますか。  
 (五) 子ぐまたちは どう しましたか。
- これから この おはなしは どうなるでしよ  
 あなたたちで この つづきを つくって みて  
 ください。この おはなしの つづきは この  
 つぎの 本にも ています。

こと	とき	ところ	ほど
きょう	ある日	いつか	となり
うら	おく	あたり	むこう
あと	まえ	あいだ	上
中(まん中)	下	左	右
けいこ	ぼーる	かくれんぼ	あてっこ
しりとり	かげふみ	ささぶね	せんこうはなび
なわ	うちわ	ふうりん	べんどう
おやつ	あぶら	うち	おへや
おにわ	しろうじ	ひきて	すずみだい
かさ	からかさ	おかあさん	おとうさん
子	子ども	にいさん	あかちゃん
ちようだい	おいで		
なかよし	えんそく	おはなし	りゆうぐう

おどひめさま くに まち たんぼ  
みち はし きせん

ぼく わたし わたくし あなた  
どこ ここ あっち こっち  
それ (なかに)

一(一) 二(2) 三 四  
五 六 七 一ばん  
びき まい にな

二  
いる(います) いらっしやる なって(なりました)  
かわります てて(てました) ひらいて  
いそぐ うごく すすむ ういていました  
しずみました おちてきました ふってきました  
ちってきました すいて (かげが)うつりました  
(日が)くれそうに ながしました(ながれて)いました  
はじめました やみました

あげました 入れてやりました  
ひいてやりました おいかけて ついてきました  
よびました さがしました つかまりました  
かっていたいた あつてみたい わかれて  
むかえ はぐれない そろって えらんで

だ です 三  
いい かわいい うまく はやく  
おそい とおく うすぐらく あかるい  
あたらしい おもしろい すずしい 白い  
さいろい かぞえきれない しかたがない  
すこし もっと ちつとも どうどう  
いつも まい日 ほんどうに いろいろに  
ゆつくり しっかり まだ(まだ) もう  
また もう一ど そう どう  
この あの どんな そんな

つづきます(つづけました) やぶれ なりだしました

いって(いいました)

おっしやつて(おっしやいました) おもいました

かんがえながら わかりません 知れない

みつめました(みつからなかった) きこえます

ないた(なきだした) わらいました あわてました

つかれます あるいて とおつて くぐつた

はしつて(はしります) かけて(かけて)きました

でかけました てあいました きて(きました)

どつて(どりました) ひろいました ながました

おきましよう (かおを)ふいて もつてきて

とびこみました ふみます おすわりして

つけています はりましよう はりつけました

すんでいました くらしてました たべました

およいで はねます (かさを)さして

あんな こうして それから そして

だって ても

四 につぼん ふみお ひさしさん みどりさん

と へ まで には

でも なら のて し

もの ね な(なあ) かしら

ええ それ ああ ぼあ

これこれ まあ

ぼつぼつ ばらばら ごろごろ ざあざあ

ばちばち ぐるぐる びんびん ぱたぱた

びかり ちりん びかびか むずむず

ぱりぱり ぱとぱと どぶん すっ(と)

ぶん(と)

本書の中、とくに新しく執筆を依頼したものは次の通りである。

ゆ	う	日	葛原しげる
え	ぶ	ろん	石森延男
が	ん		矢沢邦彦
さ	し	絵	
三	井	正登	関合正明
浜	野	正義	楢原健三
三	輪	孝	

そうてい

株式会社 光村原色版印刷所図案部

左 六 山 川 一  
(60) (47) (32) (13) (4)

目 七 白 下 二  
(61) (47) (33) (14) (6)

大 小 人 五 三  
(61) (52) (34) (20) (8)

手 子 月 日 四  
(63) (53) (37) (20) (10)

右 木 中 上  
(60) (45) (26) (12)

中 ねん 一 ごとく しん 小国 109  
ば っ っ は

APPROVED BY MINISTRY  
OF EDUCATION  
(DATE DEC14,1949)

昭和二十四年十二月十四日 印刷  
昭和二十四年十一月十八日 発行  
昭和二十五年九月十四日 再版発行

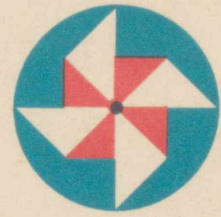
定 価 四 十 一 円

著 者 垣 内 松 三  
八 木 橋 雄 次 郎

発 行 者 東京都品川区東大崎一丁目五三二番地  
光 村 図 書 出 版 株 式 会 社  
代 表 者 大 江 恒 吉

印 刷 所 東京都品川区東大崎一丁目五三二番地  
株 式 光 村 原 色 版 印 刷 所  
代 表 者 光 村 利 之

発 行 所 東京都品川区東大崎一丁目五三二番地  
光 村 図 書 出 版 株 式 会 社



1  
中

なまろ

広島大学図書

013 0130449654



光村図書出版株式会社